

株主メモ

株主優待制度のご案内

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
定期株主総会 6月
基準日 3月31日
なおその他必要があるときは、あらかじめ公告した日

株主名簿管理人 〒100-8212
東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社
〒100-8212
東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話（通話料無料）0120-232-7111
※株式関係のお手続き用紙のご請求は、次の三菱UFJ信託銀行の電話及びインターネットでも24時間承っております。
電話（通話料無料）
0120-244-479（本店証券代行部）
0120-684-479（大阪証券代行部）
インターネットホームページ
<http://www.tr.mufg.jp/daikou>

同取次所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
一単元の株式数 100株
公告方法 日本経済新聞
届出諸事情の 住所、氏名、届出印、法人株主の代表者あるいはその役職名、
変更について 商号、配当金の振込口座等の変更は、三菱UFJ信託銀行の本店・支店*でお手続きください。
※お手続きについては、株式会社証券保管振替機構に株券を
預託されている場合には、お取引の証券会社にお申し出ください。

株式会社エイジスは、
株主の皆さまへの利益
還元のひとつとして株
主優待制度を実施して
おります。



●割当基準日 9月末日

●優待内容

100株以上1,000株未満所有の株主様

お米券3kgを贈呈いたします。

1,000株以上10,000株未満所有の株主様

お米券5kgを贈呈いたします。

10,000株以上所有の株主様

お米券10kgを贈呈いたします。

ajis エイジス

株式会社エイジス

〒262-0032 千葉県千葉市花見川区幕張町4-544-4
TEL：043-350-0888 FAX：043-350-0800

●コーポレートマークの由来

ロゴマークは、ローマ字・キータッチ・カタカナの三位体で構成されています。またエイジスのコーポレートカラーである白・青・赤は、白=お客様に対して誠実に仕事をする姿勢、青=冷静・沈着な作業態度、そして赤=エイジスマン・ウーマンの胸に秘めた情熱を表しています。



“Low Cost Operation”時代の棚卸システム

ajis エイジス





代表取締役社長 斎藤昭生

実地棚卸サービス、リテイルサポート、そして海外展開。さらなる成長への戦略があります。

Q 第30期中間期の決算概要とその背景についてお聞かせください。

当中間期のわが国経済は、企業業績の改善による設備投資の増加に加え、雇用、所得環境の改善による個人消費の堅調な拡大を背景に、景気は回復基調のもとに推移しております。当社の主要顧客である流通業界は、業態を超えた競争の激化により依然厳しい経営環境が続いております。

このような環境下、当中間期の単体業績につきましては、売上高は7,042百万円と前年同期比で13.9%上回り、ほぼ計画通りの結果となりました。一方利益面では、営業利益は893百万円、営業利益率は前年同期の10.4%から12.7%へと上昇し、当初計画を大幅に上回る成果をあげました。また経常利益は910百万円(前年同期比39.7%増)、中間純利益は563百万円(同43.1%増)となりました。

売上高拡大の要因には、アパレル等の新規顧客の獲得、ホームセンター・ドラッグストア等の既存顧客の受注拡大等があげられます。また、利益面での大幅な改善には、次にあげる人材政策の改革が大きく貢献しました。

まず、「クルーイングシステム※」の精度向上があります。

これにより人員配置の効率化ができ生産性を大きく向上させることができました。また、前期まで連結子会社コマースサービスシステム・ジャパン(以下CSS・J)で行ってきた人材採用を、今期から本社に新規採用の仕組づくり専任者を設けて新規採用を効率化するとともに、棚卸経験者の「コンタクト(定期的な声かけ)管理」も、きめ細かに行うことで囲い込みを強化し、増大する棚卸のアウトソーシング需要に応える人材の確保を推進いたしました。

さらに、新規採用者に向けた「カウンスキルアップ教育」の強化があります。当社では2年前から科学的手法の一つであるIE(インダストリアルエンジニアリング)の視点から棚卸作業を分析し標準化したオペレーションの構築を推進しています。

このように、「クルーイングシステム」と当社の最も重要な経営資源である人材の獲得と運用を強化したことが、大幅な利益の向上をもたらしました。

※ クルーイングシステム
個人別のスキルをもとに作業割り当てを行い、人員設定を行うこと。

Q エイジスグループとしての成長に向けた課題と施策をお聞かせください。

今後の経営の方向には3つの大きな柱があります。1つ目は実地棚卸サービスのさらなる強化。2つ目はリテイルサポートサービスの拡大。3つ目は海外市場に向けた展開です。

まず、実地棚卸サービスのさらなる強化ですが、継続して、科学的手法を取り入れた棚卸作業システムの構築に取り組んでまいります。また人材面では、棚卸経験者を確保するため、子会社CSS・Jによる閑散期の仕事の獲得と「循環棚卸」を推進してまいります。

さらに、棚卸精度及び生産性の向上を目的に品質マネジメントシステムISO9001認証の取得に取り組んでおります。

次に、リテイルサポートサービスを拡大しエイジスの新たな収益の柱として育てていきます。CSS・Jが、チェーンストアを対象として提供している、レジ派遣・商品補充・新店応援などの人材派遣は、当中間期売上においても前年同期比で16.1%増加するなど高い成長性を有しています。また、カスタマーサービスチェック(店舗における従

業員の接客サービスレベルとストアコンディションを調査するサービス)についても、当期から事業部化し、業容拡大に注力しております。具体的には、当中間期に専門誌への広告掲載により、認知度向上をはかりました。

また、成功実績のある米国企業のノウハウを導入し、WEBを活用した低価格のサービスを提供できるビジネスモデルを構築してまいります。

3つ目の柱が海外市場への展開です。エイジス韓国では、すでに韓国大手チェーンストアを顧客としております。さらに受注拡大に向けて営業活動を積極化してまいります。またエイジス大連では、現在システム開発を行っています。今後中国における棚卸事業の本格化に向けた市場調査を強化してまいります。

Q 最後に、株主様へのメッセージをお聞かせください。

エイジスは、実地棚卸サービスのリーディングカンパニーとして、この業界をリードしていく責任があると自覚しています。創業以来30年の総括として科学的手法を取り入れた世界最高水準の棚卸技術の確立に向けて投資を継続し、その地位をゆるぎないものにしてまいります。そして実地棚卸サービス以外でも、流通業界を支える「リテイルサポートのエイジス」へと進化してまいります。

お陰さまで、2007年3月期末における9期連続の増収増益はほぼ確実と見込んでおり、当期末の配当は前期末より5円増配の40円を予定しております。今後とも皆様のご期待に応えるべく、永続的な増収増益を目指して事業に取り組んでまいります。ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

経営方針

- 1 圧倒的な強さを誇る棚卸ビジネスの更なる強化
- 2 リテイルサポートビジネスの拡大
- 3 海外市場への更なる展開

「選ばれるエイジス」に向けて 顧客満足のコアを担う人材育成を さらに強化します。

1のものを2にも3にもできるのが人材力…

エイジスの最も大切な経営資源です。

高い顧客満足度を創造するために、人材をいかに充実させていくのか、
「エイジス人材戦略の今」を伺いました。



Q:人材育成の基本的な考え方をお聞かせください。

**サービス価値を作り出すのは人。顧客満足度の最大化を目指し
人材育成システムを進化させています。**

エイジスが提供する実地棚卸サービスを利用するお客様のメリットとは、単に手間を省きコストダウンにつながるだけでなく、専門的な教育を受けたスタッフが棚卸することで、より精度の高い棚卸を実現し、経営効率を高めることにあります。

当社は「実地棚卸サービス＝価値」という見えないものを商品としており、これを生み出し、質を向上するカギとなるものが、エイジスのスタッフ一人ひとりのスキルとマインドです。当社スタッフの成長なくしてはお客様により満足いただけるサービスの提供は望めません。

そのため、当社は創業以来社員教育を最優先の課題とし、全くの未経験者を短期間で即戦力化する独自の教育研修システムを構築して、スタッフの育成に力を注いでまいりました。

2002年には、本社内に小売店舗を模した「トレーニングルーム」を設置し、より実践的な教育を実施するとともに、接客マナーやプロ意識の醸成をはかり、「さすがはエイジス」とお客様に評価いただけるエイジスマン・エイジスウーマンの育成を目指しています。



人事部 人事部長代理 関 和彦

また当社では、実地棚卸サービスを提供した店舗の管理者の方々に「お客様アンケート」を実施し、貴重なご指摘を関係スタッフに周知徹底させるとともに、サービス・精度の向上、スタッフのモラルアップに活かさせていただいております。

Q:今後の方針と目標を教えてください。

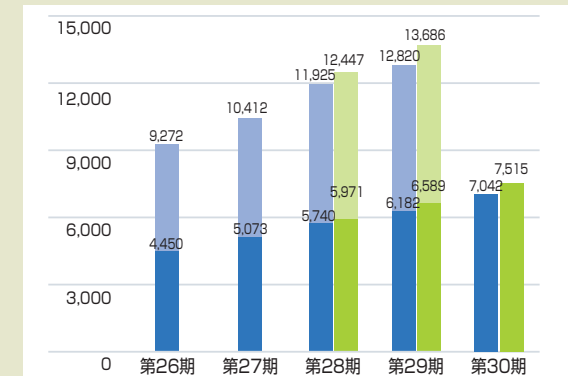
**経験者の有効活用を実現することで、人材力を厚く、
強くしていきます。**

新規採用者の即戦力化と並んで重視しているのが、経験者の有効活用です。競合する同業他社と質の高さで差別化していくためにも、高いスキルを持つ経験者を数多く確保することを今後の方針としています。作業精度と生産性の面で優秀な実績を残した経験者に対し、繁閑の差の影響を受けることなく業務をシフトすることにより、従業員の継続的な雇用を可能とする環境を整えてまいります。並行して、流通業周辺サービスに必要な知識の習得や作業スキルを向上させる為の集合研修の実施等、特に有能な経験者を中心とした教育の実施に取り組んでまいります。

これら取り組みの実行により、より高いレベルのサービスをお客様へ提供させていただくと共に、次代を担う人材の育成を進めてまいります。

売上高

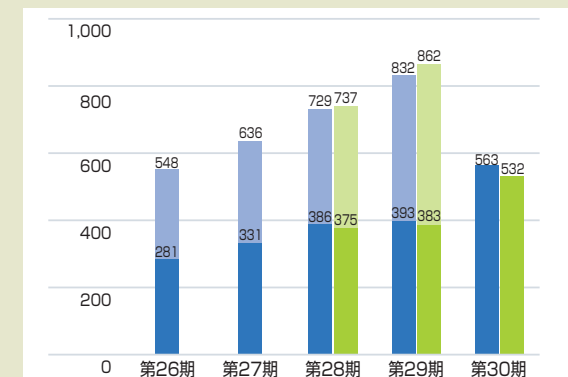
(単位：百万円)



ホームセンター、ドラッグストア、ディスカウントストア及びその他の業態の新規顧客の獲得と既存顧客の受注増により、連結売上高は前年同期比14.1%増の7,515百万円となりました。

中間（当期）純利益

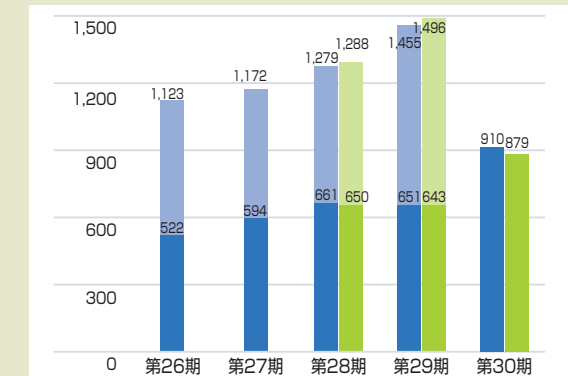
(単位：百万円)



特別利益として確定拠出年金制度移行益94百万円を計上した結果、連結中間純利益は前年同期比38.7%増加し、532百万円となりました。

経常利益

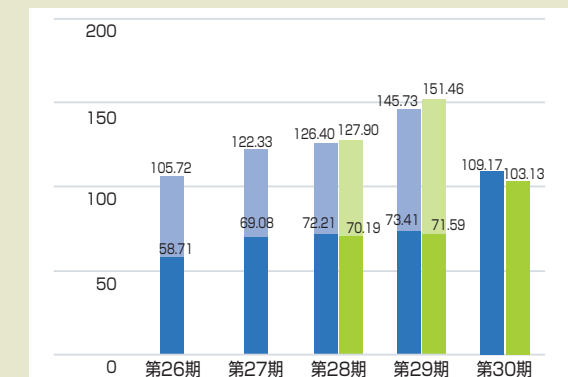
(単位：百万円)



社員数の増加により、販売費及び一般管理費は増加したものの、クルーイングシステムによる人員配置の効率化等に努めた結果、連結経常利益は前年同期比36.7%増加し、879百万円となりました。

1株当たり中間（当期）純利益

(単位：円)



中間純利益の増加により、連結1株当たり中間純利益は前年同期の71.59円から大幅に増加し、103.13円となりました。

単体 ■ 中間期 ■ 通期 連結 ■ 中間期 ■ 通期 第26期・第27期はエイジス単体のみ

【実地棚卸サービス事業】

棚卸受託収入の売上高は前年同期比13.9%増の6,895百万円となりました。業態別の内訳は下記の通りです。

●コンビニエンスストア

既存大手顧客の受注増により、売上高は前年同期比5.2%増の1,560百万円となりました。

●スーパーマーケット

新規大手顧客の獲得及び既存顧客の受注増により、売上高は前年同期比11.1%増の1,000百万円となりました。

●ホームセンター・ドラッグストア・ディスカウントストア
ターゲット業態として集中的に営業活動を実施した結果、新規顧客の獲得と既存顧客の受注増により、売上高は前年同期比24.2%増の1,485百万円となりました。

●書店

既存顧客の受注増により、売上高は前年同期比2.6%増の474百万円となりました。

●G.M.S.（注）

既存大手顧客の受注増により、売上高は前年同期比16.3%増の953百万円となりました。

（注）G.M.S.（General Merchandise Store）
大衆美用品のうち、新機能開発品主力の総合店。いわゆる日本型大型スーパーであります。

●その他

新規大手チェーンの獲得と既存チェーンの受注増により、売上高は前年同期比19.0%増の1,420百万円となりました。

【その他の流通業周辺サービス事業】

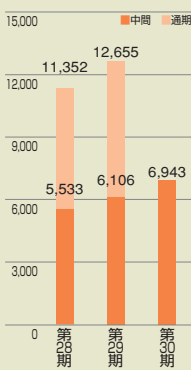
カスタマーサービスチェックは新規顧客の獲得と、既存顧客の受注減があり売上は横ばいとなりましたが、周辺サービスは新規顧客の獲得により、売上高は前年同期比30.7%増の99百万円となりました。

【人材派遣事業】

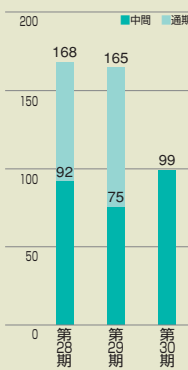
流通業の顧客の獲得により、売上高は前年同期比16.1%増の472百万円となりました。

上記のとおり、棚卸受託収入の合計は6,895百万円となり、ロイヤリティ収入の47百万円を加えると、実地棚卸サービス事業の合計は6,943百万円（前年同期比13.7%増）となりました。その他の流通業周辺サービス事業の売上高99百万円、人材派遣事業の売上高472百万円を加えた当中間連結会計期間の売上高は7,515百万円（前年同期比14.1%増）となりました。収益面では、経常利益879百万円（前年同期比36.7%増）、中間純利益532百万円（前年同期比38.7%増）となりました。

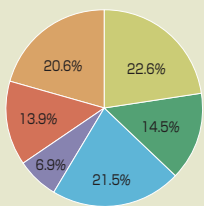
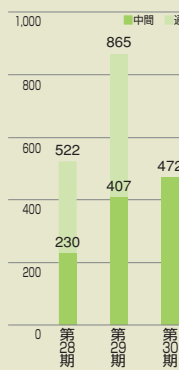
実地棚卸サービス事業
売上高（単位：百万円）



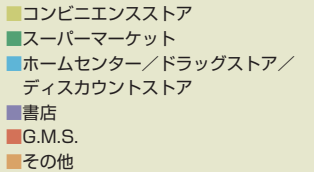
その他の流通業周辺サービス
事業売上高（単位：百万円）



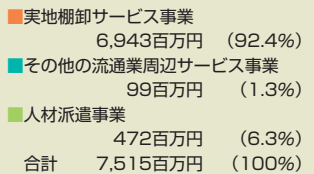
人材派遣事業売上高
（単位：百万円）



棚卸受託収入の業態別売上高 構成比



セグメント別売上高 構成比



中間連結貸借対照表（要旨）

（単位：百万円）

	当中間期 H18.9.30現在	前中間期 H17.9.30現在	前 期 H18.3.31現在
資産の部			
流動資産	4,787	4,259	4,333
固定資産	2,132	2,138	2,161
繰延資産	—	0	—
資産合計	6,920	6,398	6,495
負債の部			
流動負債	2,355	1,995	2,042
固定負債	101	282	279
負債合計	2,457	2,277	2,321
資本の部			
資本金	—	475	475
資本剰余金	—	489	489
利益剰余金	—	3,137	3,616
その他有価証券評価差額金	—	52	71
自己株式	—	△34	△478
資本合計	—	4,120	4,173
負債及び資本合計	—	6,398	6,495
純資産の部			
株主資本	4,396	—	—
資本金	475	—	—
資本剰余金	489	—	—
利益剰余金	3,911	—	—
自己株式	△479	—	—
評価・換算差額等	67	—	—
純資産合計	4,463	—	—
負債純資産合計	6,920	—	—

（注）記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間連結株主資本等変動計算書

当中間期 平成18年4月1日から平成18年9月30日まで	株主資本					評価・換算差額等 その他有価証券 評価差額金	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計		
平成18年3月31日残高	475	489	3,616	△478	4,102	71	4,173
中間連結会計期間中の変動額							
剰余金の配当（注2）			△180		△180		△180
役員賞与（注2）			△57		△57		△57
中間純利益			532		532		532
自己株式の取得				△0	△0		△0
株主資本以外の項目の中間連結会計期間中の変動額（純額）						△4	△4
中間連結会計期間中の変動額合計	—	—	294	△0	294	△4	289
平成18年9月30日残高	475	489	3,911	△479	4,396	67	4,463

（注1）記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

（注2）平成18年6月の定時株主総会における利益処分項目であります。

中間連結損益計算書（要旨）

（単位：百万円）

	当中間期 H18.4.1～H18.9.30	前中間期 H17.4.1～H17.9.30	前 期 H17.4.1～H18.3.31
売上高	7,515	6,589	13,686
売上原価	5,525	5,058	10,388
売上総利益	1,989	1,530	3,297
販売費及び一般管理費	1,123	891	1,815
営業利益	866	638	1,482
営業外収益	14	9	21
営業外費用	1	4	6
経常利益	879	643	1,496
特別利益	95	13	13
特別損失	44	—	7
税金等調整前中間(当期)純利益	931	657	1,502
法人税・住民税及び事業税	361	288	655
法人税等調整額	37	△15	△14
中間(当期)純利益	532	383	862

（注）記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：百万円）

	当中間期 H18.4.1～H18.9.30	前中間期 H17.4.1～H17.9.30	前 期 H17.4.1～H18.3.31
営業活動によるキャッシュ・フロー	579	203	919
投資活動によるキャッシュ・フロー	△178	△134	△305
財務活動によるキャッシュ・フロー	△330	△30	△545
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	—	—
現金及び現金同等物の増加額	69	38	67
現金及び現金同等物の期首残高	2,094	2,027	2,027
現金及び現金同等物の中間期(期末)残高	2,164	2,065	2,094

（注）記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間貸借対照表（要旨）

（単位：百万円）

	当中間期 H18.9.30現在	前中間期 H17.9.30現在	前 期 H18.3.31現在
資産の部			
流動資産	4,564	4,076	4,098
固定資産	2,251	2,267	2,289
繰延資産	－	0	－
資産合計	6,815	6,344	6,388
負債の部			
流動負債	2,212	1,893	1,927
固定負債	101	282	279
負債合計	2,313	2,176	2,207
資本の部			
資本金	－	475	475
資本剰余金	－	489	489
利益剰余金	－	3,185	3,623
その他有価証券評価差額金	－	52	71
自己株式	－	△34	△478
資本合計	－	4,167	4,180
負債及び資本合計	－	6,344	6,388
純資産の部			
株主資本	4,434	－	－
資本金	475	－	－
資本剰余金	489	－	－
利益剰余金	3,949	－	－
自己株式	△479	－	－
評価・換算差額等合計	67	－	－
純資産合計	4,501	－	－
負債純資産合計	6,815	－	－

（注）記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

中間株主資本等変動計算書

（単位：百万円）

当中間期 平成18年4月1日から平成18年9月30日まで	株主資本									評価・換算差額等	純資産 合計
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金			自己株式	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	
		資本準備金	その他資本剰余金		その他利益剰余金						
					特別償却準備金	別途積立金	繰越利益剰余金				
平成18年3月31日残高	475	489	0	63	6	2,480	1,073	△478	4,109	71	4,180
中間会計期間中の変動額											
特別償却準備金の取崩（注2）					△2		2		－		－
別途積立金の積立（注2）						580	△580		－		－
剰余金の配当（注2）							△180		△180		△180
役員賞与（注2）							△57		△57		△57
中間純利益							563		563		563
自己株式の取得								△0	△0		△0
株主資本以外の項目の中間会計期間中の変動額（純額）										△4	△4
中間会計期間中の変動額合計	－	－	－	－	△2	580	△251	△0	325	△4	321
平成18年9月30日残高	475	489	0	63	4	3,060	821	△479	4,434	67	4,501

（注1）記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

（注2）平成18年6月の定時株主総会における利益処分項目であります。

中間損益計算書（要旨）

（単位：百万円）

	当中間期 H18.4.1～H18.9.30	前中間期 H17.4.1～H17.9.30	前 期 H17.4.1～H18.3.31
売上高	7,042	6,182	12,820
売上原価	5,194	4,708	9,690
売上総利益	1,847	1,473	3,130
販売費及び一般管理費	954	832	1,697
営業利益	893	641	1,433
営業外収益	17	12	28
営業外費用	1	2	6
経常利益	910	651	1,455
特別利益	95	13	13
特別損失	44	－	7
税引前中間(当期)純利益	961	665	1,461
法人税、住民税及び事業税	361	287	644
法人税等調整額	37	△15	△14
中間(当期)純利益	563	393	832
前期繰越利益	－	241	241
中間(当期)未処分利益	－	634	1,073

（注）記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

株式の状況（平成18年9月30日現在）

発行可能株式総数・・・・・・・・・・14,000,000株

発行済株式の総数・・・・・・・・・・5,385,600株

株主数・・・・・・・・・・2,527名

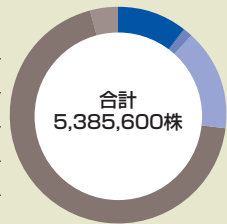
大株主（上位10名）（平成18年9月30日現在）

株主名	当社への出資状況	
	持株数（株）	出資比率（%）
斎藤陽子	678,800	12.60
斎藤昭生	673,580	12.50
斎藤茂昭	571,600	10.61
バンクオブニューヨーク・シーエム		
クライアント・アカウンツィー・アイ・エス・ジー	294,500	5.46
斎藤泰範	272,170	5.05
エイチエスピー・シーバンク・ビーエル・シー・アカウント		
アトランティス・ジャパン・グローバル・ファンド	202,090	3.75
資産管理サービス信託銀行株式会社（証券投資信託口）	190,000	3.52
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	188,700	3.50
小林美保子	159,700	2.96
斎藤茂男	158,400	2.94

（注）当社は、自己株式225千株を保有しておりますが、当該株式には議決権がないため上記大株主から除外しております。

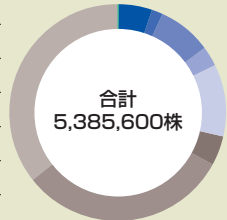
所有者別分布状況（平成18年9月30日現在）

■ 金融機関	560,640株(10.41%)
■ 証券会社	4,429株(0.08%)
■ その他の法人	68,980株(1.28%)
■ 外国法人等	813,880株(15.11%)
■ 個人・その他	3,712,621株(68.94%)
■ 自己名義株式	225,050株(4.18%)

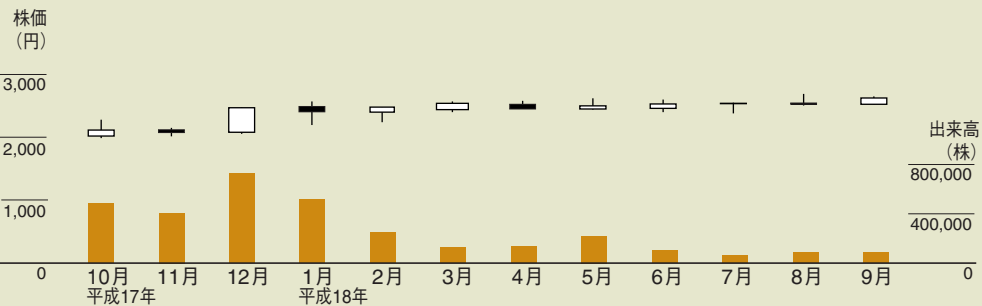


所有株数別分布状況（平成18年9月30日現在）

■ 1単元未満	3,280株(0.06%)
■ 1単元以上	268,810株(4.99%)
■ 5単元以上	89,000株(1.65%)
■ 10単元以上	433,120株(8.04%)
■ 50単元以上	159,544株(2.96%)
■ 100単元以上	579,960株(10.77%)
■ 500単元以上	237,296株(4.41%)
■ 1,000単元以上	1,690,610株(31.39%)
■ 5,000単元以上	1,923,980株(35.73%)



株価・出来高の推移



会社概要（平成18年9月30日現在）

会 社 名	株式会社エイジス (英文名 AJIS CO.,LTD.)
資 本 金	475百万円
設 立 年 月 日	1978年5月23日
従 業 員 数	226名※連結
営 業 拠 点	直営45ヶ所 FC29ヶ所
業 務 内 容	●実地棚卸サービス ●その他の流通業周辺サービス
主要取引銀行	●三菱東京UFJ銀行 千葉支店 ●みずほ銀行 千葉支店 ●三井住友銀行 千葉支店
ホームページ	http://www.ajis-group.co.jp/

取締役および監査役（平成18年9月30日現在）

取 締 役 会 長	芦 部 克 生
代表取締役社長	斎 藤 昭 生
常 務 取 締 役	近 江 元
常 務 取 締 役	山 地 琢 巳
取 締 役	仁 田 善 郎
取 締 役	竹之下 正 夫
取 締 役	高 橋 一 人
取 締 役	秋 葉 孝
取 締 役	五十嵐 亨 司
取 締 役	戸 丸 富志夫
常 勤 監 査 役	鈴 木 行 雄
監 査 役	安 田 登

主要取引先（平成18年9月30日現在）

コンビニエンスストア		
イー・エム・ピー・エム・ジャパン	セーブオン	ファミリーマート
サークルKサンクス	セブン-イレブン・ジャパン	ミニストップ
スリーエフ	デイリーヤマザキ	ローソン
G.M.S.スーパーマーケット		
イオン	西友	マルエツ
イズミヤ	ダイエー	みやぎ生協
イトーヨーカ堂	長崎屋	ヤマザワ
いなげや	パロー	ヤマナカ
オークワ	平和堂	ヨークベニマル
関西スーパーマーケット	ベイシア	ライフコーポレーション
コープこうべ	マイカル	
コープとうきょう	マックスバリュ	
百貨店		
西武百貨店	天満屋	阪神百貨店
大丸	阪急百貨店	松屋
ホームセンター/ドラッグストア/ディスカウントストア		
カーマ	CFSコーポレーション	富士薬品
カインズ	ジップ・ホールディングス	ホームック
カワチ薬品	スギ薬局	マツモトキヨシ
クスリのアオキ	セキチュー	ユタカファーマシー
ケーヨー	千葉薬品	ユニリビング
コーナン商事	ツルハ	ライフオート
サンドラッグ	トステムビバ	ロイヤルホームセンター
書店		
旭屋書店	ジュンク堂	文真堂書店
アシーネ	TSUTAYA	丸善
紀伊國屋書店	阪急電鉄（ブックファースト）	宮協書店
三省堂書店	東日本キョスク	有隣堂
三洋堂書店	文教堂	リプロ
その他		
赤ちゃん本舗	コジマ	日本トイザらス
アディダスジャパン	ジョルジオ アルマーニ ジャパン	藤久
エディー・パウアー	ゼビオ	ユニクロ
エディオン	大創産業	ライトオン
キャンドゥ	東急ハンズ	良品計画
九九プラス	ドン・キホーテ	ロフト
クリスチャン ディオール	西松屋チェーン	ワークマン
コーチ・ジャパン	ニトリ	

※敬称・株式会社は省略させていただいております。※50音順

●株式会社エイジス（平成18年9月30日現在）

青森D.O.	熊谷サテライト	名古屋D.O.
盛岡サテライト	大宮D.O.	四日市D.O.
秋田D.O.	川越サテライト	岐阜D.O.
仙台D.O.	千葉D.O.	金沢D.O.
山形D.O.	市原サテライト	富山サテライト
郡山D.O.	柏D.O.	大阪D.O.
小山サテライト	東京D.O.	堺D.O.
宇都宮D.O.	東東京サテライト	東大阪D.O.
水戸D.O.	吉祥寺D.O.	奈良サテライト
土浦サテライト	八王子D.O.	京都D.O.
新潟D.O.	横浜D.O.	滋賀サテライト
長岡サテライト	厚木D.O.	神戸D.O.
高崎D.O.	沼津D.O.	姫路サテライト
長野D.O.	静岡サテライト	岡山D.O.
松本サテライト	浜松D.O.	松江サテライト

●エイジス九州株式会社

広島D.O.	福岡D.O.	宮崎D.O.
広島北サテライト	久留米D.O.	鹿児島D.O.
福山D.O.	長崎D.O.	沖縄D.O.
山口サテライト	佐世保サテライト	沖縄北サテライト
小倉D.O.	佐賀サテライト	
大分D.O.	熊本D.O.	

●エイジス北海道株式会社

札幌D.O.	函館D.O.	帯広D.O.
札幌中央D.O.	旭川D.O.	釧路D.O.
苫小牧D.O.	北見D.O.	厚別D.O.

●エイジス四国株式会社

高松D.O.	松山D.O.
徳島D.O.	高知D.O.



●子会社（100%出資）

エイジスビジネスサポート株式会社（大韓民国 ソウル特別市、実地棚卸サービス業）
ソウルD.O./ブサンサテライト
株式会社コマーシャルサービスシステム・ジャパン（千葉県 人材派遣業）
大連愛捷是科技有限公司（中華人民共和国遼寧省大連市、システム開発）

（注）D.O.(ディストリクト オフィス) とは営業所のことです。
サテライトとは出張所のことです。